

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

別添	なし
----	----

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	音楽	種目	オーケストラ等
----	----	----	---------

応募区分(応募する区分を選択してください。)

応募区分	A区分
------	-----

複数応募の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、応募企画数から除く

複数応募の有無	無	応募総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

文化芸術団体の概要

ふりがな 制作団体名	こうえきしゃだんほうじん おおさかこうきょうがくだん		団体ウェブサイトURL
	公益社団法人 大阪交響楽団		https://sym.jp/
代表者職・氏名	理事長 芳井 敬一		
制作団体所在地	〒 590-0074	最寄り駅(バス停)	南海高野線 堺東駅
	大阪府堺市堺区北花田口町3-1-15 東洋ビル4階		
電話番号	072-226-5533		
ふりがな 公演団体名	おおさかこうきょうがくだん		団体ウェブサイトURL
	大阪交響楽団		https://sym.jp/
代表者職・氏名	理事長 芳井 敬一		
公演団体所在地	〒 590-0074	最寄り駅(バス停)	堺東駅
	大阪府堺市堺区北花田口町3-1-15 東洋ビル4階		
制作団体 設立年月	1980年9月(公益社団法人化2018年11月)		
制作団体組織	役員	団体構成員及び加入条件等	
	理事長 芳井 敬一 副理事長 海堀 芳樹 常務理事 赤穂 正秀/他22名 監事 岸田 泰治(公認会計士)	事務局長 赤穂 正秀 他事務局員 19名 楽団員 48名(オーディションによる) 法人会員 276社968口/個人会員 207名 2024年9月1日現在	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者 を置く	本事業担当者名	常務理事・事務局長 赤穂正秀
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	中務 奈緒
本応募にかかる連絡先 (メールアドレス)	赤穂 正秀 ako@sym.jp		

<p>制作団体沿革・ 主な受賞歴</p>	<p>【沿革】 1980年「大阪シンフォニカー」として創立。創設者である、永久名誉楽団代表・敷島博子が『聴くものも、演奏するものも満足できる音楽を！』を提唱。いつも聴衆を“熱く”感動させるその演奏は、「魂の叫び」「情熱の音」と評されている。 楽団名を「大阪シンフォニカー」から2001年1月に「大阪シンフォニカー交響楽団」、さらに2010年4月に「大阪交響楽団」と改称。また支援組織として、1988年大阪シンフォニカー協会が設立、2008年12月に一般財団法人となる。さらに2012年4月に支援組織と楽団を統合し、一般社団法人大阪交響楽団となり、2018年11月に公益社団法人となった。2000年本拠地を大阪府堺市へ移転。2006年4月、大和ハウス工業株式会社 代表取締役会長 CEO(当時) 樋口武男氏が運営理事長を経て、2018年11月公益社団法人大阪交響楽団理事長に就任。2020年10月に大和ハウス工業株式会社 代表取締役社長 CEO 芳井敬一氏に理事長をバトンタッチした。2022年4月、新指揮者体制として、山下一史(常任指揮者)、柴田真郁(ミュージックパートナー)、高橋直史(首席客演指揮者)の3名が就任、2025年4月から2028年3月までの任期を延長も決まり、さらなる楽団の飛躍が期待されている。楽団公式ホームページ(https://sym.jp)</p> <p>【主な受賞歴】 1990年大阪府知事表彰。2007年音楽クリティック・クラブ賞受賞。2008年1月、平成19年度(第62回)文化庁芸術祭「芸術祭優秀賞」受賞。同年7月、平成20年度「堺市栄誉賞」受賞。2009年7月、平成21年度「堺市功績団体」として堺市より表彰。2010年1月、平成21年度(第64回)文化庁芸術祭「芸術祭大賞」受賞。2022年3月、令和3年度(2021年度)大阪文化祭賞を堺シテリオペラと合同で受賞(il Teatro L'alba L'amore“オペラ×オーケストラ”公演に対し)。同賞の受賞は、91年、93年、99年、2000年、2013年に続き6度目となる。令和5年(2023年)5月、大阪府より知事表彰受賞。</p>		
<p>学校等における 公演実績</p>	<p>令和2年度 高等学校依頼 1公演 子供育成総合事業 4公演 文化芸術体験機会の創出事業 6公演</p> <p>令和3年度 高等学校 1公演 子供育成総合事業 7公演 文化芸術鑑賞・体験支援事業 7公演</p> <p>令和4年度 堺市小学校鑑賞会 10公演 高等学校依頼 2公演 子供育成総合事業 8公演 子供のための文化芸術鑑賞・体験再興事業 5公演</p> <p>令和5年度 堺市小学校鑑賞会 8公演 舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演) 7公演 文化芸術による子供育成推進事業(文化施設等活用事業) 1公演</p> <p>令和6年度 堺市小学校鑑賞会 8公演 舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演) 10公演 文化芸術による子供育成推進事業(文化施設等活用事業) 2公演</p>		
<p>特別支援学校等における 公演実績</p>	<p>平成25年度 1公演(次代を担う子どもの文化芸術体験事業) 平成27年度 2公演(文化芸術による子供の育成事業) 令和2年度 1公演(文化芸術による子供育成総合事業)</p>		
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>無</p>	
	<p>※公開資料有の場合URL</p>		
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>	
		<p>PW:</p>	

別添	なし
----	----

公演・ワークショップの内容


【公演団体名

大阪交響楽団

】

対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○
企画名	大阪交響楽団 演奏会「白鳥に変えられたお姫様の物語」			
企画のねらい	<p>チャイコフスキー3大バレエのひとつである「白鳥の湖」を題材に取り上げます。本来バレエ公演の場合、オーケストラは、劇場のピットに入り舞台上にはセットが生まれ100名を越すバレエダンサーが壮大な踊りを繰り広げますが、音楽としても名曲ぞろいの中からピックアップし、ナレーションつきにより、児童・生徒の興味を深めつつ、鑑賞をより豊かな経験にすることを目的とします。</p> <p>また、児童・生徒が、出演者と共演することで、一体感が生まれ、より深い経験となり、さらに校歌の共演は、身近なものからのオーケストラを含む芸術へ繋がります。バレエ音楽からは、鑑賞を通して、舞台芸術や作品に係わる様々な事柄への幅広く深い学びとなり、さらには児童・生徒のキャリア形成の一助となることを目標としています。</p>			
演目概要・演目 選択理由	<p>【概要】 大阪交響楽団オリジナル楽器紹介・・・フルートから始まり木管楽器、金管楽器、弦楽器、打楽器と、オーケストラで使用している楽器を、クラシックの名曲にのせて紹介していく、大阪交響楽団オリジナルの楽器紹介曲。</p> <p>白鳥に変えられたお姫様の物語(チャイコフスキー バレエ音楽「白鳥の湖」より)・・・ 名曲ぞろいのこの曲の中からピックアップしオーケストラの醍醐味をナレーションつきで演奏。</p> <p>吹奏楽・金管バンド・リコーダー・合唱などとの共演・・・吹奏楽を初め、器楽合奏(アコーデオンなど)や鼓笛隊、金管バンド、リコーダー、合唱など、さまざまな共演形態に応じて当団オリジナルで共演用にオーケストラ部分をアレンジしています。 希望の共演形態と曲目は①～③の中から選択。</p> <p>校歌・・・ピアノ伴奏の楽譜からオーケストラ伴奏にアレンジし、合唱部や全生徒と一緒に合唱共演します。また、金管バンドや吹奏楽と共演できるようなアレンジも可能。</p> <p>【選択理由】 大阪交響楽団オリジナル楽器紹介・・・ワークショップでも取り上げるキーワードは“4”。オーケストラはすべて“4”で成り立っています。木管・金管・弦楽器・打楽器の4セクション、フルート・オーボエ・クラリネット・ファゴットの木管の4つの楽器、ソプラノ・アルト・テノール・バスの4声部、ヴァイオリンなどの弦楽器は4本の弦がはつてあります。それらの説明をナレーションにのせ、それぞれ楽器の特徴がよくわかる曲を演奏し、児童・生徒にわかりやすく興味を持つきっかけとなる演目です。(大阪交響楽団オリジナル曲)</p> <p>吹奏楽・金管バンド・リコーダー・合唱などとの共演・・・児童・生徒との共演を通して、より身近な演奏と鑑賞の体験をすることを目指します。本来オーケストラにはない、サクソフォーンやユーフォニアムなどの吹奏楽楽器にも共演の機会を持ってもらい、吹奏楽部生徒全員で共演できる楽しみを共有します。吹奏楽以外にも、器楽合奏(アコーデオンなど)や鼓笛隊、金管バンド、リコーダー、合唱など、さまざまな形態で共演できることが特徴です。 各々の演目を通して、児童・生徒が、より音楽に興味を持つようオリジナルの企画としました。</p>			

<p>児童・生徒の参加又は体験の形態</p>	<p>※ 4羽の白鳥では、希望する児童・生徒2～3名によりオーケストラを指揮する指揮者体験コーナーを実施します。 ※ ラデツキー行進曲では指揮にあわせて全員で手拍子を。手拍子を大きくしたり小さくしたり、音楽に合わせて変化します。 ※ 吹奏楽部との共演が可能。共演できる楽器は吹奏楽部の楽器全員です。曲は1曲選択 ※ 小学校では、校歌で金管バンドや器楽部、ソプラノリコーダーや吹奏楽など学校の形態に応じた形での共演が可能です。 ※ アンコールに校歌を全生徒一緒に歌います。合同開催校がある場合、複数の校歌のメドレーも可能です。 ※ 地域のオリジナル共通教材(市歌・町歌)などがあれば、複数開催校と一緒に歌うこともできます。</p>		
<p>児童・生徒の参加可能人数</p>	<p>本公演</p>	<p>参加・体験人数目安</p>	<p>全校児童・生徒(10～700人程度)</p>
		<p>鑑賞人数目安</p>	<p>全校児童・生徒(10～700人程度)</p>
<p>本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付</p>	<p>編成 3333-4431 Timp1 Per4 Harp 10-8-6-6-4 計64 +指揮者・司会者</p> <p>【オープニング】 ジョン・ウィリアムズ 映画「スターウォーズ」から “メインテーマ”</p> <p>【オーケストラ解剖】 なかむら たかし大阪交響楽団オリジナル楽器紹介“オーケストラの仲間たち”</p> <p>～～休憩 10分～～</p> <p>【白鳥に変えられたお姫様の物語】 チャイコフスキーバレエ音楽「白鳥の湖」より情景／4羽の白鳥／チャルダッシュなどからナレーションつき *「4羽の白鳥」で指揮者体験コーナー実施</p> <p>【オーケストラと共演しよう！】(下記の中から共演曲1曲を選択) ① 杉本竜一 ビリーブ (小学校向け) 合唱／ソプラノ・リコーダー ② 金管バンド／吹奏楽共演 スーザ 行進曲「星条旗よ永遠なれ」／スーザ 行進曲「ワシントンポスト」 ③ 合唱共演 佐藤真 オラトリオ「土の歌」より “大地讃頌”／八木澤教司 あすという日が／菅野よう子 花は咲く</p> <p>アンコール① J・シュトラウスⅡ ラデツキー行進曲</p> <p>アンコール②【校歌を一緒に歌おう！】 【校歌でも吹奏楽・器楽合奏・リコーダー合奏などと共演できます】</p> <p style="text-align: right;">公演時間 90 分</p>		
<p>出演者</p>	<p>管弦楽 大阪交響楽団 基本編成 3管10型 演奏者64名+指揮者・司会者 指揮 平川範幸、磯部省吾 ほか</p>		
<p>演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名</p>	<p>指揮者：平川 範幸／福岡県出身。福岡教育大学卒業。上野学園大学研究生「指揮専門」にて下野竜也、大河内雅彦の各氏に師事。桐朋学園大学オープンカレッジにて、黒岩英臣、沼尻竜典の各氏に師事。プロオーケストラの指揮はもとより、各地のジュニアオーケストラや学生オーケストラ、吹奏楽団、合唱団も指揮する。2016年より2021年まで、仙台ジュニアオーケストラ音楽監督を務める。</p> <p>指揮者：磯部 省吾／1956年、大阪府生まれ。愛知教育大学卒業、同大学研究科修了。桐朋学園大学研究科修了。指揮を堤俊作に師事。1985年、東京バレエ団「くるみ割り人形」で全幕デビュー。バレエ音楽に関し、数々のバレエ団体の公演を指揮しており、高い評価を得ている。東京ミュージック&メディアアーツ尚美講師、日本指揮者協会会員。</p>		

<p>本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含 む</p>	<p>出演者: 66 名 スタッフ: 10 名 合 計: 76 名</p>	<p>運搬</p>		<p>積載量: 4 t 車 長: 8 m 台 数: 2 台</p>		
<p>本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール)の 目安</p>	<p>前日仕込み</p>	<p>無</p>	<p>前日仕込み所要時間</p>		<p>時間程度</p>	
	<p>到着</p>	<p>仕込み</p>	<p>上演</p>	<p>内休憩</p>	<p>撤去</p>	<p>退出</p>
	<p>7:30</p>	<p>7:30～10:30</p>	<p>13:30～15:00</p>	<p>10分</p>	<p>15:00～17:00</p>	<p>17時00分</p>
<p>※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。</p>						
<p>本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期について は、採択決定後に確認しま す。(大幅な変更は認められ ません)</p>	<p>6月</p>	<p>7月</p>	<p>8月</p>	<p>9月</p>		
	<p>9日</p>	<p>7日</p>	<p>0日</p>	<p>14日</p>		
	<p>10月</p>	<p>11月</p>	<p>12月</p>	<p>1月</p>		
	<p>10日</p>	<p>9日</p>	<p>9日</p>	<p>3日</p>		
	<p>※平日の実施可能日数目安をご記載ください。</p>		<p>計</p>	<p>61日</p>		
<p>公演に係るビジュアル イメージ (舞台の規模や演出がわ かる写真) ※採択決定後、図 面等の提出を願 います。</p>						
<p>著作権、上演権利等の 許諾状況</p>	<p>各種上演権、使用权等の 許諾手続きの要否</p>		<p>該当なし</p>	<p>該当コンテンツ名</p>		
	<p>該当事項がある 場合</p>	<p>権利者名</p>		<p>許諾確認状況</p>	<p>使用(上演)許諾取付済</p>	

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
----	----

【公演団体名 大阪交響楽団 】

ワークショップのねらい	本公演の事前学習として、楽器の名前や形・色・音色などにふれること、またオーケストラのお話を聞くことにより、さらに興味を喚起します。 プロ奏者による共演の事前指導で、児童・生徒に多くの刺激と感動を与えます。		
児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	全校児童・生徒(10～700人程度)
ワークショップ実施形態及び内容	<p>オーケストラの楽器の中から代表して、木管・金管・弦楽器の各セクションから各1名、計3名+ピアニスト1名+スタッフ1～2名がまいります。</p> <p>① 全校児童・生徒対象に、2時限(45分×2時限=約100分)の枠内で、ミニコンサートと、木管・金管・弦・打楽器の楽器についてのお話をします。(実質内容60分～70分)(各楽器の発達してきた歴史や、楽器のしくみ、音の出し方などを説明し、実際に音を出す体験をします。) また、本公演のオーケストラへの興味を促し、鑑賞へと繋がるように、オーケストラの編成などのお話(キーワード”4”)もします。生徒には、オーケストラの資料を事前に配布し、ワークショップ当日は、資料とともに、理解を深めます。</p> <p>② 共演コーナーで共演する曲目(リコーダーや、金管バンド・合唱・吹奏楽等)の事前共演指導(レッスン)を行います。(実質内容 編成により20分～100分)</p>		
その他ワークショップに関する特記事項等			

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
本事業への応募理由	
【公演団体名 大阪交響楽団】	
<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p>①本事業に対する取り組み姿勢 開催決定校に対し、会場のスペースが許す限り、近隣校、併設の幼稚園や、保護者・地域の方などに告知いただき、出来るだけ多くの方に鑑賞いただけるよう取り組んでおります。採択校の児童・生徒がメインですが、日本全国くまなく小さな町まで巡回することから、地域の方々にも本物のオーケストラによる文化・芸術を体験していただきたく機会となればと思っております。 趣旨からへき地での公演が多く、大半の児童・生徒は生のオーケストラに接する機会が殆どありません。迫力あるオーケストラの演奏を学校の体育館で聴くということは、一生に幾度とない大変貴重な経験となります。子供たちの公演後の感想で「もう二度とオーケストラを聴くことは無いと思いますが・・・」というようなコメントを聞くこともあり、我々としてはこの体験をきっかけに音楽やオーケストラや色々な楽器に興味を持っていただけるようにと考えています。子供たちが成長したときに、学校の体育館でオーケストラを聴いたことを思い出した聴きに行きたいと、思っただけいたら願っています。時間はかかりますが、本事業は文化のすそ野の聴衆開拓という側面も担っていると捉え、我々文化団体も出来るだけ知恵を出し合い続けていくべき事業であると考えています。初めてオーケストラを聴く・見る子供たちがほとんどだと思いますので、アニメや流行の曲ではなく、これぞオーケストラと言えるような正統派クラシックの選曲にこだわっています。 また学校から、地元の新聞(地方紙)やコミュニティ雑誌などに積極的に声をかけていただき、演奏会の取材をしていただいています。</p> <p>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫 開催が決定したあと、各学校へ実施に向けての詳細な資料をお送りしています。過去に実施した公演の写真やDVDなど、より具体的にイメージができる内容となっています。メールや電話にて、コミュニケーションを図りつつ、学校側から出る質問や懸案事項など、その都度対応し、出来るだけ詳細な資料を準備し、専門用語をあまり使わずわかりやすく説明をしております。 多忙な先生方の負担軽減のため、必要書類は最適なタイミングで学校に送付出来るように調整しております。</p>